

平成 30 年 6 月 27 日現在

機関番号：84426

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02885

研究課題名（和文）日本統治下朝鮮における衡平運動に関する歴史的研究

研究課題名（英文）A Historical Study about Hyeongpyeong Movement in Korea under Japanese rule

研究代表者

石橋 武（朝治武）（ISHIBASHI Asaji, Takeshi）

一般社団法人部落解放・人権研究所（調査・研究部）・企画・研究部・非常勤研究員

研究者番号：80747733

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000円

研究成果の概要（和文）：朝鮮の被差別民「白丁」（ベクチョン）にたいする差別の撤廃を掲げて、1923年に朝鮮衡平社が発起された。衡平社は1935年に大同社と改称し、1940年代には活動の跡が途絶えるが、本研究はその期間をも含めて衡平運動と位置づけて、日韓をまたがる共同研究をすすめた。

成果としては、まず、京城地方法院検事局が作成した簿冊群などの朝鮮総督府関係史料を中心に翻刻した『朝鮮衡平運動史料集』の刊行があげられる。これらの新出史料や関連しての史料発掘によって、衡平社の組織や運動課題、植民地統治との関係、また戸籍など当該期の「白丁」をめぐる差別や主な生業とされた食肉皮革業などの実態解明を進めることができた。

研究成果の概要（英文）： The Joseon Hyeongpyeongsa was formed in 1923, eliminating discrimination against a disadvantaged group in Korea, the Baekjeong. While they changed its name to the Daedonsa in 1935 and ceased its activities in the 1940s, this research covers the period as “Hyeongpyeong Movement”, organized Japanese and Korean scholars.

We published The Historical Materials on the Korean Hyeongpyeong Movement, including the documents filed by the Public Prosecutor's Office of the Keijo District Court. The discovery of these newly-found materials and the exploration of other relevant materials made it possible to shed light on the organization of the Hyeongpyeongsa and the challenges that they faced in the movement; the relationship between their movement and the colonial rule; and the situation of discrimination against the Baekjeong in the period (including on the family registry) and their main livelihoods, such as meat and leather industries.

研究分野：日本史（近現代部落史）

キーワード：白丁 衡平社 朝鮮総督府 治安維持 戸籍 植民地 水平運動 国際研究者交流

1. 研究開始当初の背景

朝鮮衡平社は、1923年晋州にて、「白丁」(ペクチョン)出身者への差別をなくすことを訴えて結成された。白丁とは、前近代朝鮮社会における被差別民の一集団であり、屠畜や柳器製造を生業としていた。奴婢は賤民であっても一般社会の内部に包摂されていた一方で、白丁は共同体から疎外されて最も強く差別された。1894年の甲午改革で身分解放がおこなわれたが、白丁への社会的差別は旧態依然たるものであった。

その発起人には白丁と非白丁とがともに加わっていたが、まもなく、白丁出身で日本に留学経験もある張志弼が主導権を握る。左派との路線対立を経て、戦時下には大同社と改称して白丁の経済的向上を重視しつつ戦争協力をおこなった。衡平社の創立を画期として、大同社に改組された時期も含めて展開された、白丁身分の解放のための運動を、本研究では衡平運動とする。

日本では部落問題との比較から関係者の関心は高かった。しかし、新聞史料や、あるいは関係者および遺族らの回顧による研究はあったが、史料面での制約から、解明が進まないという研究状況であったところ、2012年8月、全国部落史研究会の年次大会である全国部落史研究大会の近現代史分科会は、水平運動の国際連帯をテーマに、金仲燮と徐知伶の報告を迎え、衡平社について議論した。徐知伶が紹介した朝鮮総督府の警察関係史料は部落史研究者に知られておらず、大きな関心を呼んだ。

一般社団法人部落解放・人権研究所では衡平社史料研究会を組織し、本研究の準備を進めた。すなわち、本研究の研究分担者である水野直樹が、これらの警察史料が京城中方法院を原所蔵とする思想調査関係の簿冊に綴じこまれていたもので、京城中方法院検事局に宛てて朝鮮総督府警務局京城鍾路警察署長などから上げられた報告であることを確認し、その精査から本研究を開始した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、上述した新出の朝鮮総督府の警察関係史料などを検討しながら、日本統治下の朝鮮において白丁に対する差別の撤廃を求めて設立された衡平社の運動を解明することであった。新たな視点から衡平運動の全体像や特定地方での運動展開、日本の水平運動との交流などを追うことで、当該期朝鮮社会の一断面を浮き彫りにすることができるのと同時に、日本による植民地統治の特質をあぶり出すことができると考えた。

3. 研究の方法

韓国で所蔵されている朝鮮総督府関係史料を精査しながら、さらに日本語および朝鮮語の新聞雑誌史料などで補いつつ、研究協力者と一体になって日韓共同研究として進めた。これらの研究会報告であったり、あるいは

は韓国で発表された研究論文を翻訳して共有することもおこなった。また、必要に応じて、韓国での現地調査を実施した。

雑誌記事は、『正進』など衡平社の発行物のほか、日本で刊行された雑誌記事中衡平運動や白丁差別を取りあげたものを収集した。

新聞の調査対象は朝鮮で発行されていた『京城日報』、『東亜日報』、『大阪朝日新聞』朝鮮版、『朝鮮日報』、『毎日申報』、『時代日報』、『中外日報』、『朝鮮中央日報』などである。

これらを分担して翻刻したことで、日本の研究者はもとより、日本語の筆記史料を読むことに困難を感じる韓国の研究者にも内容の共有が容易となった。また朝鮮語史料もハングルの綴字法が現在の韓国の標準表記とは異なるものもあり、必要に応じて翻訳をおこなうことで、内容の共有を可能にした。

4. 研究成果

まず、史料収集の成果として、京城中方法院検事局文書が韓国・国史編纂委員会、高麗大学校アジア問題研究所で分散所蔵されている事実を確認し、研究協力者ともども一体となって、その中から衡平運動に関わる史料を検索・収集し、それらを翻刻して『朝鮮衡平運動史料集』の刊行に取り組み、研究補助期間の第2年度(2016年)にこれを出版できたことがあげられる。研究協力者各氏の献身的な作業、すなわち、編集事務を担った渡辺俊雄、翻刻を分担した竹森健二郎、吉田文茂、割石忠典、駒井忠之、矢野治世美、また翻訳にあたった高正子、金仲燮、徐知延、徐知伶、研究会事務局の松本信司らの貢献をここに特記する。総説を金仲燮が、史料解題を水野直樹が執筆した。また、出版記念講演会を2016年4月23日、大阪人権博物館にて、部落解放・人権研究所第一研究部門(部落差別の調査研究)第14回公開講座として開催し、金仲燮、水野直樹、渡辺俊雄による記念講演がされた。

その上で、最終年度にかけて衡平社の刊行物や新聞雑誌等の記事収集を進め、史料集続編の準備を進めた。

初年度には韓国で慶尚大学校人権社会発展研究所(所長・金仲燮社会学科教授)が開催した国際学術大会「衡平運動を再び考える」国際研究集会在企画されてこれに招待され、複数の報告をおこなうとともに討論に参加した。その後も日韓にまたがる研究協力者とともに研究会の開催を重ね、研究交流とともに、衡平運動の全体像や地方での運動展開、朝鮮の社会運動や日本の水平運動との交流、白丁の伝統的生業であったと同時に衡平運動の経済的基盤でもあった食肉皮革業と植民地統治との関係、また映画などでの白丁表象や白丁出身者を判別可能な戸籍の実態などを明らかにし、近現代朝鮮社会の一断面を

浮き彫りにし、日本による植民地統治の特質を明らかにすることに努めた。

さらに、分担者の水野直樹が韓国において分散所蔵されていた「衡平青年前衛同盟事件」調書（光州地方法院検事局が保存していた文書と思われる）の所在をつきとめたことで、本研究はそれらの翻刻と分析にとりくむこととした。植民地における治安維持法体制の実態解明の観点からも、被告の数が14人に及ぶ事件に関わる警察の作成した供述調書から検察訊問調書、予審訊問調書、公判調書までがほぼ揃った形で追跡できる貴重な史料で、日朝関係史研究に裨益するものは大きいと、引き続き研究を深める計画である。なお、新たな体制での共同研究が科研費に採択されたことを付記する。（基盤研究C、課題番号18K00982）

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 16 件)

水野直樹「近代朝鮮戸籍における「賤称」記載と衡平社の活動」『部落解放研究』208、2018年3月、pp.18-52、査読無。

渡辺俊雄「衡平分社の地域的展開」『部落解放研究』208、2018、pp.2-17、査読無。

吉田文茂「解題 高淑和「衡平青年前衛同盟事件について」」『部落解放研究』208、2018年3月、pp.111-115、査読無。

渡辺俊雄「朝鮮衡平運動史略年表について」『部落解放研究』208、2018年3月、pp.116-150、査読無。

川瀬俊治「北星会の朝鮮衡平運動への連帯とその限界性 機関誌『斥候隊』を中心にして」『部落史研究』3、2018年3月、174-193、査読有

朝治武「全国水平社創立の世界史的意義」『歴史評論』801、2017、pp.45-55、査読有

割石忠典「朝鮮衡平運動史研究発展のために 全羅北道・ソウルの調査をふまえて」『部落解放研究』207、2017年、pp.168-196、査読無

割石忠典「韓国での朝鮮衡平運動史に関する調査 全羅北道・ソウルにて」『部落解放』742、2017年、pp.74-81、査読無

割石忠典「植民地期朝鮮と尾道家畜市場」『芸備近現代史研究』1、2017、pp.11-28、査読無

渡辺俊雄「衡平運動史研究の課題」『朝鮮衡平運動史料集』から見えてきた課題』『部落解放研究』206、2017、pp.122-140、査読無

竹森健二郎「植民地朝鮮における衡平社と大同社の活動」『朝鮮衡平運動史料集』を中心にして』『佐賀部落解放研究所紀要』34、2017、pp.25-63、査読無

金仲燮「人種の形成 韓国の白丁の事例」齊藤綾子、竹沢泰子編『人種神話を解体する 1 可視性と不可視性のはざままで』

2016、東京大学出版会、pp.71-108

水野直樹「

」(日本敗戦後の政治犯釈放と在日朝鮮人)

(青巖大学校在日コリアン研究所編)『

』(在日コリアン運動と抵抗的政体性) (ソニン)、2016年7月、pp.265-291

水野直樹「植民地朝鮮における治安維持法」『2015年度 東京大学コリア・コロキウム講演記録』東京大学韓国朝鮮文化研究室、2016年3月、pp.1-21、査読無

水野直樹「在間島日本領事館と朝鮮総督府 「間島共産党事件」をめぐる協力と対立」『人文学報』第106号、2015年4月、pp.205-238、査読有

[info:doi/10.14989/200247](https://doi.org/10.14989/200247)

廣岡浄進「間島における朝鮮人民会と領事館警察：在満朝鮮人と植民地帝国日本」『人文学報』第106号、2015年4月、pp.169-204、査読有

[info:doi/10.14989/200248](https://doi.org/10.14989/200248)

〔学会発表〕(計 19 件)

竹森健二郎「『朝鮮衡平運動史料集』から見えてくるもの 大同社に関する若干の史料について」部落解放・人権研究所第一研究部門第25回公開講座、2018年3月31日、大阪人権博物館

水野直樹「

」(近代朝鮮戸籍の「賤称」記載と衡平社の活動)韓国社会史学会月例発表会、2017年3月11日 ソウル大

水野直樹「

」(近代朝鮮における身分制解消と戸籍(民籍)の変化)国史編纂委員会特別講座、2017年3月8日、国史編纂委員会

水野直樹「

」(近代朝鮮戸籍の「賤称」記載と衡平社の活動)、延世大学校国学研究院国学研究発表会、2017年2月23日、延世大

水野直樹「水平社と朝鮮衡平社の交流について」水平社博物館2016年度第2回公開講座 2017年1月22日(日)、御所市人権センター

廣岡浄進「衡平運動史研究の課題

『朝鮮衡平運動史料集』の刊行にかかわって」東アジア日本研究者協議会第1回国際学術大会、2016年12月1日、ソンド(松島)コンベンシア、韓国

金仲燮「晋州の近現代史 日帝強占記人権運動について」慶南MBC公開講座、2016年09月28日、慶南科学技術大学校100周年記念館、韓国

金仲燮「Understanding Korean Society」島根県学生特講、2016年08月17日、慶尚

大学校教育文化センター、韓国
金仲燮「晋州の人権運動」晋州文化体験-教員研修、2016年08月03日、晋州教育支援庁、韓国

金仲燮「晋州の人権運動に関する物語」(原題ハンゲル)文化遺産の訪問教育事業-教師職務教育(韓国文化財団主管、晋州文化研究所施行)、2016年04月17日、慶尚南道晋州市、韓国

金仲燮「衡平運動の歴史の新しい理解のために」『朝鮮衡平運動史料集』刊行記念講演会:(一社)部落解放・人権研究所第一研究部門(部落差別の調査研究)第14回公開講座、2016年04月23日、大阪人権博物館

水野直樹「朝鮮衡平運動を記録した官憲史料」同前

渡辺俊雄「史料集の構成と内容紹介」同前

竹森健二郎「衡平社史料から見えるもの 大同社に関する若干の史料について」慶尚大学校人権社会発展研究所主催、国際学術大会「

(衡平運動を再び考える)2015年11月21日、慶尚大学校人権社会発展研究所、大韓民国慶尚北道晋州市

割石忠典「衡平運動と「生活問題」について」同前

廣岡浄進「醴泉事件の経過と影響 衡平運動にたいする反動襲撃と植民地近代(Colonial Modernity)」同前

駒井忠之「水平社博物館所蔵の衡平社関係資料の紹介」同前

吉田文茂「衡平社大会に参加した猪原久重」同前

関口寛「帝国日本の被差別民への眼差し 人類学者・鳥居龍蔵の研究から」同前

〔図書〕(計 1 件)

金仲燮・水野直樹(監修) 部落解放・人権研究所 衡平社史料研究会(編集)『朝鮮衡平運動史料集』解放出版社、2016年4月、538p
(水野直樹「収録史料 解題」pp.51-76)

〔その他〕

(翻訳)

金載永「一九二〇年代湖南地方の衡平社の創立と組織」『部落解放研究』208、2018、18-52頁、高正子訳、査読無。

高淑和「衡平青年前衛同盟事件について」『部落解放研究』208、2018、74-110頁、吉田文茂訳、水野直樹および高正子監修、査読無。

(一般雑誌)

水野直樹「水平社と衡平社の交流について」『ルシファー』20、水平社博物館、2017年10月、pp.14-23、査読無。

割石忠典「国際学術大会“衡平運動を再び考える”」(1)~(2)『ヒューマンライツ』

337-338、部落解放・人権研究所、2016、pp.26-29,58-61、査読無
矢野治世美「国際学術大会“衡平運動を再び考える”」(3)~(5)『ヒューマンライツ』339-341、部落解放・人権研究所、2016、pp.58-61、58-61,44-47、査読無
友永健三「水平社・衡平社創立一〇〇周年に向けてさらなる連帯を 衡平運動をテーマに、新たな広がりを見せた国際学術大会開催される」『部落解放』723、2016年、pp.84-93、査読無
渡辺俊雄「輝きをます衡平運動の歴史 『朝鮮衡平運動史料集』発刊とその意義」『部落解放』725、2016、pp.80-87、査読無

など

6. 研究組織

(1)研究代表者

石橋 武(朝治 武)(ISHIBASHI ASAJI, Takeshi)

一般社団法人部落解放・人権研究所・企画・研究部・非常勤研究員
研究者番号:80747733

(2)研究分担者

水野 直樹(MIZUNO, Naoki)
立命館大学・文学部・客員教授
研究者番号:40181903

廣岡 浄進(HIROOKA, Kiyonobu)
大阪観光大学・観光学部・准教授
研究者番号:30548350

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

金仲燮(KIM, Joong Seop)
(韓国)慶尚大学校・社会学部・教授

高正子(KO, Jeong Ja)
神戸大学・非常勤講師
研究者番号:80441418

徐知延(SEO, Ji Yeon)
桃山学院大学・大学院博士後期課程・修了

徐知伶(SEO, Ji Young)
桃山学院大学・大学院博士後期課程・修了

吉田文茂(YOSHIDA, Fumiyoshi)
一般社団法人部落解放・人権研究所・企画・研究部・非常勤研究員
研究者番号:50747730

竹森健二郎(TAKEMORI, Kenjirou)

一般社団法人部落解放・人権研究所・企画・研究部・非常勤研究員
研究者番号：70747732

渡辺俊雄 (WATANABE, Toshio)
全国部落史研究会・運営委員

割石忠典 (WARIISHI, Tadanori)
芸備近現代史研究会・副会長

松本信司 (MATSUMOTO, Shinji)
一般社団法人部落解放・人権研究所・事務局長

駒井忠之 (KOMAI, Tadayuki)
水平社博物館・館長

関口寛 (SEKIHUCHI, Hiroshi)
四国大学・経営情報学部・准教授
研究者番号：20323909

矢野治世美 (YANO, Chiyomi)
近畿大学・生物理工学部・非常勤講師

秋定嘉和 (AKISADA, Yoshikazu)
京都部落問題研究資料センター・所長

友永健三 (TOMONAGA, Kenzo)
一般社団法人部落解放・人権研究所・名誉理事